

飛騨市・高山市・富山市をめぐるエクステンシブ型 フィールドトリップの事前学習の記録 (第2報)

— 高山市について —

香川貴志*¹

Record of Prior Learning for an Extensive Field Trip
Around Hida-Furukawa, Central Takayama and Toyama (Part 2)

Takashi KAGAWA

抄録：本稿は、筆者が隔年で担当する学部前期集中科目「地理学特講」の事前学習会の成果をまとめたものである。現地行動の対象地域である飛騨市古川地区、高山市街地、富山市街地に関する比較的新しい論考107本を、受講生23名（全員が学部学生）と筆者（香川）が分担し精読ののち要旨をまとめた。その後、筆者が、受講生の作成した原稿を必要に応じて修正し、自身の担当分は推敲を重ねて本稿の付録部分を編み上げた。整えられた原稿は、参加者全員の共有財産となり、現地行動の際に合冊したものを配布・活用した。本稿は、そのうち高山市に関する文献要旨を整理したものであり、同様の野外実習をこれらの地域で行う際に、最も優れた参考資料の一つとして利活用できるよう周到に設計されている。飛騨市古川地区と富山市街地についての文献要旨は本誌所収の第1報（香川：2017a）にまとめている。

キーワード：事前学習，文献研究，書誌情報，高山市

I . はじめに—本稿（第1報）を受けて—

本稿は、別稿（香川：2017a）と同様に、現地での学習をより実りのあるものにするを目的に実施した事前学習の記録である。昨今の学生たちは、オープンアクセスで論文をダウンロードできないとそこで諦めてしまう者も珍しくなく、卒業論文や修士論文においても明らかに文献渉猟が足りないケースが目立つ。本学はどちらかといえば研究志向ではなく教職に就くことを目的とした実学的な大学であるとはいえ、このような趨勢は決して望ましいことではない。この状況を放置すれば、経験則だけで業務に没頭してしまう教員を増やし、「学び続ける教員」の育成が難しくなってしまう。

本稿を作成する基盤となった文献検索、そして文献要旨のまとめ方などについては別稿（香川：2017a）で詳述したのでここでは重複を避け、飛騨市古川地区と富山市街地に関する論文の要旨を集めた第1報には紙幅の都合で格納できなかった、高山市についての論文要旨を本稿の付録として掲載する。

* 1 京都教育大学教育学部

Ⅱ．受講生による論文要旨の難点を探る

第1報告にも記したように、論文要旨は上限字数を239字に定めた。この字数は、従来の経験（香川：2013, 2015a, 2015b, 2016）よりも若干多くなっているが、それは本稿の付録の書式で5行以内に収まるようデザインしたためである。

受講生各自が担当した3~4編のうち1本の論文要旨を発表してもらった事前学習会、さらに現地でのフィールドやミーティング（香川2017b）の折に何人かの受講生から聞いたところによれば、「字数が少ないので最初は簡単にまとめられると思っていたが、想像していた数倍は難しかった」、「事前学習で説明された通り、将来教壇に立った時に学級新聞や学級だよりの編集で大いに役立つと思う」などの好意的な感想が多かった。もっとも「文献を集めるのは面倒くさいのでオープンアクセスできるものに限って欲しい」という今様の感想もあった。

得られた論文要旨は総じて良くまとまっていたが、限られた字数の中で冗長な表現が残っているもの、評論文ではなく感想文になっているもの、表現が単調に過ぎるものなどが相応に見られ、次頁からの本稿付録を作成するにはかなりの労力を要した。とりわけ、冗長な表現が残っている論文要旨を素材となった原著と照合すると、その大半において読み込みが浅く論文要旨を引き延ばしつつ書いていることが判明した。論文要旨の仕上がり具合は、本授業科目の平常点評価の材料として活用した。

論文要旨をまとめるのに相応の手数が必要だったようだが、こうした経験は卒業論文で自身の研究を位置付ける際に必ず活用できる。せつかくの現地実習科目であるので、事前学習（文献研究）が不十分なままで現地に臨まない、さらに読むだけで分かったような気持ちにならない習慣を書くことによって会得させるなど、本授業科目では地理学の「内容」だけでなく、あらゆる学問分野で汎用的に使える「方法」を学ばせたいと考えている。

●参考文献（対象地域に関する論文は次頁からの付録を参照のこと）

香川貴志（2013）「東日本大震災を受けての防災教育普及のための取組—さまざまな論考の整理と三陸地域での現地検証—」, 京都教育大学紀要, 123, pp. 31-45.

香川貴志（2015a）「阪神・淡路大震災20周年を機会として復興と防災・減災について考える（第1報）」, 京都教育大学環境教育研究年報, 23, pp. 7-15.

香川貴志（2015b）「阪神・淡路大震災20周年を機会として復興と防災・減災について考える（第2報）」, 京都教育大学環境教育研究年報, 23, pp. 17-25.

香川貴志（2016）「懐かしさを感じる街を歩くための事前学習の記録—門司港レトロ, 豊後高田「昭和の町」, 別府温泉郷を事例として—」, 京都教育大学環境教育研究年報, 24, pp. 1-14.

香川貴志（2017a）「飛騨市・高山市・富山市をめぐるエクステンシブ型フィールドトリップの事前学習の記録（第1報）—飛騨市古川地区, 富山市街地について—」, 京都教育大学環境教育研究年報, 25, pp. 31-44.

香川貴志（2017b）『『まち』の再活性化を学ぶ—飛騨古川, 高山, 富山における2016（平成28）年度『地理学特講』の覚え書き—」, 京都教育大学教育実践研究紀要, 17, pp. 1-10.

[付 録]

1. 「高山市」で検索した文献（2010年以降、原則的に5ページ以上、ニュース、グラビア、人文地理学との関係が薄い論文を除く、氏名50音順）。個々の論文のキーワードから「高山」、「高山市」、「飛騨高山」は除外。

Reference : 阿波秀貢 (2010). 地域づくりの軌跡 高山市の新たな景観形成法の展開—「まちかど整備」-「横丁整備」30年間の歩み. 地域政策研究 (地方自治研究機構), 51, 61-71.

Key Words : まちかど, 横丁, 景観形成法, コミュニティ

Abstract : 「住みよいまちは行きよいまち」を基本理念に「やさしさと活力にあふれるまち飛騨高山」の実現を高山市は目指してきた。目標実現のためのアクションは大きく三つに分けられ、それぞれの計画や目標、意義や実施結果などが整理されている。これまで中心市街地活性化のために官民一体となって「まちかど整備」が行われてきた。しかし、これらの取り組みは歴史的地区に限らず行われている。すなわち、我々はまちかど整備が決して観光都市・高山の特殊性ゆえになされることではないという点に注目すべきであろう。

Reference : 生嶋亜樹子 (2012). 「新しい公共」型学校づくりの時代における総合的学習の展開—高山市・朝日学区の実践から—. 生活科・総合的学習研究 (愛知教育大学), 10, 167-175.

Key Words : 総合的学習, 地域学習, 地域社会, 教育課程, 指導計画

Abstract : 平成の大合併で高山市に編入された同市南東部の朝日小中学校区を事例地域として、地域社会の持続的な発展を視野に入れた地域学習「過疎化への対策」が総合的学習の観点に立って実施された。この学習の過程を分析すると同時に、戦前・戦後の郷土学習との比較、生活科・社会科・総合的な学習の時間の中での地域学習の位置づけを試みている。結果、昨今の教育改革の流れの中で小中連携を具体化する教育課程や指導計画の立案が大切であり、学校と地域の連携が旧来に増して重要になっていることを明らかにできた。

Reference : 伊藤 薫 (2012). 岐阜県飛騨地域の観光産業について—高山市を例として—. *Review of economics and information studies* (岐阜聖徳学園大学), 13 (1・2), 35-63.

Key Words : 競争と協力, 観光客, 江戸期, 重要伝統的建造物群保存地区, バリアフリー, 保存運動

Abstract : 飛騨高山は観光産業に依存しつつ、他地域との連携も進め、競争しながらも協力して集客に取り組んでいる。人口増減と所得増減は呼応しているため、経済の活性化が必要となる。高山観光は、雑誌の宣伝や、国鉄のキャンペーン、交通の発達、バリアフリーの街づくりで発展した。外国人観光客の情報バリアフリーも始まり外国人観光客が大幅に増加している。高山市の歴史的町並みは金森氏の支配、江戸期の天領を経て、今日まで保存されている。重要伝統的建造物群保存地区になり、地元の自主的な保存活動が進んだ。

Reference : 伊藤 薫 (2015a). 岐阜県高山市の福祉観光都市政策の評価と展望—文献調査の結果と今後の研究方向—. *Review of economics and information studies* (岐阜聖徳学園大学), 15 (3・4), 45-60.

Key Words : 福祉観光政策, 飛騨地域, 障がい者, 高齢者

Abstract : 高山市は福祉観光政策を打ち出し、第二次世界大戦後の日本で最も観光開発に成功した都市ともいわれるようになった。その高山市がいかにして福祉観光都市として発展するようになっていったのかを、取材や統計データ解析によるアプローチによって考察している。また、著者の先行研究を通じて、高山市を含めた

飛騨地域の観光地では、経済活動において「競争」と「協力」が同時に並行して行われてきたと指摘している。そして、障がい者や高齢者の観光客が実際に増加したのかなど、今後の研究課題を提示している。

Reference : 伊藤 薫 (2015b). 岐阜県高山市の福祉観光都市施策の変遷—高山市総合計画による分析—. *Review of economics and information studies* (岐阜聖徳学園大学), 16 (1・2), 7-32.

Key Words : 総合計画, 福祉観光都市政策, バリアフリー, ユニバーサルデザイン, 先進都市

Abstract : 福祉観光政策に取り組んだ高山市の政策効果を検証するための分析として4つの課題を検討した。日本の人口が将来大幅に減少する中で高齢旅行者が増加するため、福祉観光政策の重要性が説かれている。高山市第6次総合計画(1996年)からバリアフリーの要素が付与され、福祉観光都市政策が盛り込まれている。しかし、第7次総合計画(2005年)からはバリアフリーよりもユニバーサルデザインの使用が多くなり、市政の幅広い分野に拡散した。こうした高山市の取り組みは様々な機関から認知されている。

Reference : 岩田 修 (2013). 高山市内石垣の矢穴—高山城石垣の行方を探る. 斐太紀, 9, 59-70.

Key Words : 石材加工, 石垣, 矢穴, 火砕流堆積物, 大洞石

Abstract : 高山市内に残存する石材加工の際の矢穴の形状、矢穴が開けられた素材としての石の種類から、高山城の石垣に使用された石がどこへ行ったのかを模索した論考である。石垣に使われた石は火砕流堆積物であり、新しいものは総じて大洞石を使用する傾向のあることが従来の研究で解明されている。石は重量の関係から遠方まで運ばれるとは考え難く、元禄8年に加賀藩によって徹底破壊された高山城の石垣の石が、どこで再利用されているのかについての興味は尽きない。それを解明する手掛かりが矢穴の形状である。

Reference : 加古朝海 (2010). 市町村合併前後の高齢者福祉サービスの評価について—岐阜県高山市の保健師を対象としたアンケート調査から—. 紀要 (愛知江南短期大学), 39, 89-104.

Key Words : 市町村合併, 高齢者福祉サービス, 行政サービス, 少子高齢化

Abstract : 高山市において、住民は市町村合併による高齢者福祉サービスの変化をどのように評価しているのか、また、高山市にどのようなサービスが必要なかを把握することを目的として、保健師を対象としたアンケートを実施し、その結果から市内一律の福祉サービスの在り方についての是非を検討した。その結果は、地域によってその特性や生活環境の違いが大きく、サービスの統一の難しさが浮上し、今後はサービス水準を引き上げ、公平性を考慮しながら合併を進めていく必要があるという課題の析出に成功した。

Reference : 菊地淑人 (2012a). 高山市三町重要伝統的建造物群保存地区における観光関連事業の現状と課題—観光関連事業者のアンケート調査—. 日本建築学会技術報告集, 18 (38), 309-312.

Key Words : 重要伝統的建造物群保存地区, 文化財, 観光資源, 住民意識, アンケート調査

Abstract : 三町重要伝統的建造物群保存地区における観光関連全店舗/施設にアンケートを実施した。その結果、地域において観光を生業とする人の多くが、いま観光客のマナーや行動などの地域が抱える複数の問題を実感しており、そして何らかの解決を求めていることが分かった。この背景には、「町並保存会」が機能しなくなっているということがあると思われる。これは行政・保存会を中心に考えていくべき課題であり、そのためにも保存会体制の再考、また新規の店舗経営者の積極的な関わりや協力が不可欠な状況にある。

Reference : 菊地淑人 (2012b). 祭礼を支える「組」組織とそれをとりまく社会変化—岐阜県高山市旧城下町地域における伝統的祭礼を事例として—. 日本建築学会計画系論文集, 77, 26-59.

Key Words : 祭礼, 文化財, 屋台, 地域社会

Abstract : 高山市の祭礼は組という組織が中心となるが, 近年人口減少により祭礼に携わる人員も減少している。また屋台組の所有権に関して法律が絡む問題となる場合もあるが, 行政が支援して地域の共有資産にしていくべきだろう。課題としては少子化による「わざ」の継承の限界, 全体的な人員不足, 祭囃子の演奏, 運営資金の問題などが挙げられる。ただ稀なことではあるものの, 金銭に関係なく祭礼に参加してくれる人も出てきている。他に屋台の保管に関して, 屋台会館の運営や資金に関する課題もある。

Reference : 倉地幸子 (2012). 合併後の『高山市図書館』に期待される役割と課題. 地域経済 (岐阜経済大学), 31, 43-62.

Key Words : ネット回線, 市町村合併, 図書館, 連続講座, 地域自治

Abstract : ネット回線によって, 図書館利用は大きく変容しつつある。平成の大合併 (市町村合併) によって, 市として日本一の面積となった岐阜県高山市の図書館から, 今後の図書館運営をめぐる考察がなされている。本館と, 旧町村9自治体それぞれの公民館を図書館分館とした10の図書館が連携をとることで, とりわけ分館では従来に比べて資料の数が格段に増えた。また, 旧高山市にある本館では連続講座を開講し, 図書館側から市民へ働きかけることで, 図書館が地域自治の拠点となる可能性を見出すことができた。

Reference : 塩谷莉沙 (2014). 中学校における郷土教育実践の課題と可能性—高山市を事例として—. 教師教育研究 (岐阜大学), 10, 335-342.

Key Words : 郷土教育, 郷土資料, 学校内部組織, カリキュラム開発

Abstract : 学習指導要領においても, 郷土教育に関する指導項目が詳細に記載され, その重要性が叫ばれる中, 中学校現場においては, 小学校と比較して, 郷土教育実践が行われていないという現状がある。また意識調査では, 郷土教育の「量感」があるにも関わらず, 教員や生徒の「認知度」は低いことが明らかになった。その一方で, 先進的に郷土教育を行っている学校では, 「郷土教育に関する学内組織」を活性化し, 地域の課題に着目させ, 直接働きかける活動を積極的に展開していることが明らかとなった。

Reference : 鈴木智華・後藤正美 (2014). 高山市域における悉皆調査と地域住民の伝統木造建物に対する意識調査. 歴史都市防災論文集, 8, 41-48.

Key Words : 伝統木造建物, 歴史的町並み, 悉皆調査, 災害意識

Abstract : 高山市には, 多くの伝統木造建物が現存している。こうした建物を後世に残すために, 市内の建造物の現状や, 地域住民の意識調査などを行い, 伝統木造建物がいかなる環境下にあるのかを明らかにした。建造物の現状としては, 伝統木造建物の占める割合は全体としては2割程度だが, 保存地域に限れば5割程度の残存を認めることができた。また, 意識調査では, 歴史的町並みという意識はあるものの, 災害への備えが十分であるとはいえず, 伝統木造建築物を後世に残していくうえでの課題が浮き彫りにされた。

Reference : 寺境信弘 (2015). 高山市における公共交通体系再編の取り組み. 運輸と経済, 75 (4), 91-97.

Key Words : 公共交通体系, バス, 赤字路線, 公共交通活性化

Abstract : 高山市のバスの運行体系は非効率的,あるいは地域によって運賃体系に差が生じているため,市の自主運行バスは全て赤字路線という現状があった。そこで,市民参加によるワークショップを中心に協議を重ね,出された意見を考慮した交通体系の再編に踏み込んだ。具体的な活動として,今まで様々な運行方法が混在していた市内のバスを目的や役割に応じて,地域間接続の「幹線バス」,地域内を運行する「地域バス」,主要施設を行き来する「中心市街地バス」の3種類に分類することで運行効率上昇の成果をあげた。

Reference : 高山市商工観光部商工課 (2015). 高山市中心市街地活性化基本計画の概要. 市街地再開発, 543, 37-41.

Key Words : 城下町, 外国人観光客, 中心市街地活性化

Abstract : 岐阜県高山市の高山駅周辺地域と城下町~高山駅間の商業集積地区の両者を基軸とした中心市街地の活性化を目的とした活性化基本計画の概要説明である。中心市街地の現状を踏まえうえて,活性化に向けて3つの基本方針が打ち出されている。①「住みやすいまち」,②「にぎわいのあるまち」,③「やさしさにあふれるまち」の3つである。この基本方針それぞれに2019(平成31)年度までに達成する具体的数値目標をたて,その目標を達成するために立案された6つの事業が説明されている。

Reference : 直井岳人・十代田朗・飯島祥二 (2013). 観光地としての歴史的町並みにおける地元の生活の様相—訪問客のまなざしの対象と,それに対する住民の評価—。都市計画論文集, 48 (1), 82-87.

Key Words : 住民, 訪問客, まなざし, 観光地

Abstract : 近年,観光地において地元の生活様相が重要視されている。歴史的町並みでは,歴史的固有性が魅力となる一方,そこに暮らす住民の生活が重なっている。ここでは高山市を例に,訪問客のまなざしとなりうる,住民の生活様相を示している。訪問客と住民それぞれに,高山市の町並みについて,観光客向けであるものと,地元住民の生活だと感じたものを記入してもらった。結果,歴史的町並みの中でも,打ち水や草花の栽培などが,住民生活に根差した観光地作りを進めるための可能性となることが判明した。

Reference : 直井岳人・十代田朗・飯島祥二 (2014). 歴史的町並みにおける訪問客のまなざしの差異と町並みの印象との関係—岐阜県高山市の歴史的町並みをケースとして—。観光研究, 26 (1), 47-60.

Key Words : 歴史的町並み, 訪問客のまなざし, 印象

Abstract : 観光とは人々が日常生活圏を離れることで,日常生活では満たされない「快」欲求を,新奇な経験をすることによって満たそうとする所作とすることができる。こうした経験を味わうため,観光客は,訪問先で日常生活とは異なる部分にまなざしを向ける。高山市のような歴史的町並みで観光客がまなざしを向ける対象となる様相は,訪問客の諸属性によって差異があり,このような差異が町並みへの異なる印象に繋がる可能性を秘めていると指摘できた。

Reference : 直井岳人・十代田朗・飯島祥二 (2015). 歴史的町並みにおける訪問客のまなざしとロイヤルティの関係。観光科学研究 (首都大学東京), 8, 43-50.

Key Words : 歴史的町並み, 訪問客, まなざし, ロイヤルティ, 再訪意向, 訪問推薦意向

Abstract : 本研究では,高山市の歴史的町並みにおいて,訪問客を対象に質問紙調査を行い,再訪意向と訪問推薦意向の2種類の意向の観点から訪問客のまなざしとロイヤルティとの関係を分析している。調査結果から,

訪問客のクラスターを3タイプ抽出することができ、歴史的町並みの幅広い様相、特にそこに存在する人々に目を向ける人ほど、その町並みへの訪問を他者に推奨する意向が強いということが分かった。今後は、異なる季節を対象として同様の調査を行い、周年的な検討を施す必要があると考えられる。

Reference : 西永勝己 (2014). 住民・行政『協働』の地域づくりの契機に—「歴史的風致」維持向上で観光振興を図る高山市の無電柱化事業—。道路, 884, 22-25.

Key Words : 住民と行政の協働, 無電柱化, 景観保全, 観光振興

Abstract : 高山市では、景観向上を図る無電柱化事業が行われている。この事業から、住民が地域の価値を再発見し、この発見をまちづくりに繋げることが景観保全の第一歩となった。そして行政と住民が協働して取り組むことが、景観保全の原動力となっている。今後の課題としては、そうした住民らの動きを具体的な成果に結びつけることである。行政による住民の景観保護運動への支援制度などの後押しがより一層大切になってくるであろう。

Reference : 野原 卓・高山地域マネジメント研究会 (2013). 高山市の地域マネジメント計画（自律を育むための「新・郷土学」）。まちづくり, 37, 90-99.

Key Words : 地域マネジメント計画, 地域経営, 平成の大合併, 資源樹系図, アイデアカード

Abstract : いわゆる平成の大合併（市町村合併）により高山市は面積が大幅に拡大し、旧来の生活圏を超える行政運営がなされるようになった。その結果、中山間地域の多くの集落で自律的な地域運営が困難になりつつある。この状況を改善するために各集落が持つ地域資源を掘り起こし、各々の資源の相互関係を資源樹系図に整理する作業が行われた。居住者からアイデアカードを用いて意見を出し合った後の議論を経て、地域の持つ優れた点や改善点が明らかとなり、自律的な地域経営を促していく素地が整えられた。

Reference : 畠山輝雄 (2013). 高山市におけるインバウンド観光の実態と地域への影響。研究紀要（日本大学文理学部）, 85, 105-125.

Key Words : インバウンド観光, 重伝建地区, VJC（ビジット・ジャパン・キャンペーン）, 外国人観光客

Abstract : 高山市は古い町並み、高山祭、朝市などにより日本有数の観光地となっている。外国人観光客は欧米や台湾からが多い。市では官民一体で広報活動や受け入れを行っている。ただ住民の外国人観光客に対する考えには地域差がある。宿泊施設に関しては大規模なものは主にアジア系観光客が多く、中小規模のものでは欧米系観光客が多い。そして施設によって外国人観光客の影響には差がある。しかし外国人観光客が飲食店や土産物店へ及ぼすプラスの影響は大きくないのが現状で、その改善が今後の課題といえる。

Reference : 福島 茂・李 曉峰 (2010). 地方中小都市圏型超広域合併自治体の地域経営と空間管理—岐阜県高山市の事例研究—。都市情報学研究（名城大学）, 15, 27-36.

Key Words : 平成の大合併, 地域経営, 空間管理, 協働

Abstract : 超広域合併自治体の事例として高山市を例に挙げ、合併の背景や地域・空間構造などをまとめることで理解を深めていくという観点から論が展開されている。そして高山市の官民での役割分担の見直し、地域に任せるべきところは任せるという地域経営と空間管理のアプローチについて分析と評価が行われている。その上で残された課題をいくつか例示し、高山市のような地方自治体が今後どのような地域経営を行うべきであ

るか提案している。このように他地域からも見習うべき点が多いのではなからうか。

Reference : 紅谷正勝 (2012). 岐阜県高山市の特産物を活用した商品開発から展望する地域産業共同体. 国際文化政策, 3, 57-71.

Key Words : 食材, 文化的価値, 出荷量, 流通経路, 社会関係資本, 経済的行為

Abstract : 宿讎かぼちゃやエゴマ, ドラゴンフルーツをはじめとする岐阜県高山市の特産物, 自然や文化, 地域の支えなどにより人々に親しまれているこれらの食材の文化的価値やそれらの出荷量や流通経路から論が展開される。企業の存続や地域の発展のための利潤動機による経済的行為と, 人間の温かみや相互扶助意識, 農家の意識の高さやおもてなしの心といった社会関係資本の相補助的関係から, これらをとともに生かし合える民間主導の地域産業共同体が展望される。

Reference : 松浦健治郎 (2012). 都市空間に演出される祝祭空間の都市形態学的解説—春と秋の高山祭りを事例として—. 都市計画論文集, 47 (3), 583-588.

Key Words : 祝祭空間, 都市空間, ハレの空間, ケの空間, 都市形態学, 高山祭

Abstract : 日本三大曳山祭りの一つである春季と秋季の高山祭を題材にして, 都市空間と祝祭空間の関連性を都市形態学の観点から追究した研究である。その結果, ①都市空間の変化に順応して祝祭空間が変化してきたこと, ②簾や垂れ幕によって「ハレの空間 (街路空間)」と「ケの空間 (建築の内部空間)」が巧みに分離されていること, ③特徴的な都市空間に合わせて祝祭空間が効果的に演出されていること, ④祝祭時の利用を考慮に入れた都市空間の整備がなされていること, 以上の4点が明らかとなった。

Reference : 松浦健治郎・萩原隆道 (2012). 高山祭 (岐阜県高山市), まちづくり, 36, 44-49.

Key Words : 高山祭, 屋台組, 町並み保存会, 歴史的建造物

Abstract : 高山祭は, 京都の祇園祭と同じく日本三大曳山祭りの一つであり, 日本三大山車祭の一つでもある。開催は春と秋の年二期であり, 約500年の歴史があるという。高山祭を飾りや伝統神事・芸能面で支えているのが屋台組である。屋台組は基本的に各町内会, もしくはいくつかの町内会複合で構成され, 町並み保存会を作って景観の保存・整備も行っている。これらの地域コミュニティの存在もあり, 現代の都市開発と歴史的建造物がうまく調和した都市空間が作られている。

Reference : 三輪義弘 (2010). 高山市本町三丁目四班 伝承史料の紹介. 斐太紀 (2010年度), 98-106.

Key Words : 本町三丁目, 史料, 共同体内規則

Abstract : 本町三丁目四班には班長に代々引き継がれる永久保存の古文書がある。史料は計30点あり, 共同体内部の規則, 組入の際の文書, 共有財産管理, 冥加金名簿, 借用書に分けられる。最も重要なのは「覚」という共同体内の規則が完全な形で残っている最古の書類である。200年以上前に定められた冠婚葬祭の儀礼, 就業や生活に対する規則が今日でも確認できることは, 歴史や文化の研究材料として極めて貴重である。現在の不動産の権利書に相当するものもあり, 150年以上前の社会システムの一端を知ることができる。

Reference : 森田美佐子・川原 晋 (2013). 観光地におけるバリアフリーの考え方と進め方に関する研究—高山市の行政主催モニターツアーと市民まちづくり活動に着目して—. 観光科学研究 (首都大学東京), 6, 95-

101.

Key Words：福祉観光都市，外国人観光客，インバウンド政策，観光バリアフリー，モニターツアー

Abstract：高山市は福祉観光都市として，バリアフリーに関する取り組みを行ってきた。その中には，道路の段差解消や交通施設のバリアフリー化だけでなく，外国人旅行者の言語などに関する「情報バリア」を解消する取り組みも含まれる。それに加えてインバウンド政策とも連携しながら，全ての旅行者のバリアを解消する観光バリアフリーという活動を推進してきた。行政主催のモニターツアーと高山市のバリアフリー化の検証を通じて，行政のみならず市民や商店街が観光バリアフリーの取り組みを支えていることが判明した。

Reference：吉田宏之（2013）. 高山市における伝統・文化と生活意識に関する調査—心理尺度についての基礎的検討. 常磐短期大学研究紀要, 41, 13-26.

Key Words：高山祭，屋台組，土地への愛着，価値指向性，生きがい感，心理尺度

Abstract：高山市では高山祭が行われている。国に重要な文化と指定されており観光分野において重要な役割を担っていると同時に，一定の経済効果がある。一方，「屋台組」と呼ばれる運営組織に様々な負担があることも事実である。負担があるのにもかかわらず，祭りが今もなお継承されている理由を価値や生きがいなど，心理的側面に求め，①土地アイデンティティへの愛着，②価値指向性，③生きがい感，以上3つの心理尺度からアンケート調査を通じて考察した論文である。

Reference：和仁奈緒子（2010）. 外国人が安心して一人歩きできる高山市のまちづくり. 地域政策研究（地方自治研究機構）, 50, 26-31.

Key Words：外国人観光客，多言語，国際化，おもてなし

Abstract：高山市の観光課の職員が，高山市が行っている外国人観光客誘致のための取り組みを紹介している。もともと増加傾向だった外国人観光客の誘致を早期から積極的に展開している高山市は，ガイドや通訳なしで歩ける観光地を目指し，多言語に対応した誘導案内板やマップ，観光案内所の設置を行った。また，民間事業者とも協力し，接客マニュアルや研修会を開いたり助成金も創設したりしている。さらに，イベントやインターネットを利用した海外への情報発信を精力的に行い，外国人観光客の増加を実現している。

2. 「飛騨高山」で検索した文献（2000年以降，原則的に5ページ以上，ニュース，グラビア，人文地理学との関係が薄い論文を除く，氏名50音順）。個々の論文のキーワードから「高山」「高山市」「飛騨高山」は除外。

Reference：青柳憲昌（2015）. 江戸時代末期から明治時代における飛騨高山の町家の「梁組」の変遷. 日本建築学会計画系論文集, 80, 953-962.

Key Words：町家，梁組，日本建築史学，近世，近代

Abstract：かつて都市部の民家研究は農家研究よりも低調で，高山の町家についても同様であった。吉島家や日下部家が重要文化財に指定されるにあたって高山の町家への注目度が高まり研究例も増えた。その多くの研究では高山の町家は梁組を豪壮に見せつつ貫（梁組に使う水平材）を使用しないのが特徴とされてきた。しかし，高山に残る町家を詳細に調べると，江戸時代末期に建てられたものには貫が多用されていることが判明した。その後，貫の使用が徐々に減少し，高山の町家の特徴として語られるようになったと考えられる。

Reference: 天木秀幸 (2009). 岐阜県『飛騨高山』の選挙事情—東京都と同じ広さをもつ日本一広い市—. 選挙, 62 (6), 23-31.

Key Words: 平成の大合併, 選挙, 選挙人名簿, 投票区, 期日前投票,

Abstract: 市町村合併により行政域が巨大になった高山市を事例として, 同市で実施された市議会議員選挙のシステム構築や管理運営などを紹介し, 今後の改善点を模索した論考である。投票区や投票場の設定, 開票場の設置や投票箱の輸送, 期日前投票の進め方など, 様々な課題が浮上した。このようなシステム構築だけにとどまらず, 巨大な行政域を有する自治体が従来に増して市民の声を限なくすくい上げていくためにいかなる選挙を行うべきか模索を重ね, さらなる経験の蓄積を基盤とした不断の改善に励む必要がある。

Reference: 井上 浩 (2000). 高山の観光とその振興についての一考察. 東京交通短期大学研究紀要, 10, 83-95.

Key Words: 地域振興, 観光素材, 景観保全, 宿泊収容施設

Abstract: 高山市は岐阜県飛騨地方中心部の高山盆地に位置する国内有数の観光地である。高山の魅力としては, 飛騨の国と呼ばれていた頃からの工芸品や年中行事などの伝統芸術を継承している点, 周囲を雄大な山々に囲まれ景観保全により古い町並みを維持している点, 各施設の内外における統一された演出性を確認できる点が挙げられる。しかし, アクセス面の改善は進んだものの, 宿泊収容施設の不足問題などが残っており, 市民と行政が連携して問題に取り組むことで, より高山の魅力を高めることができると思われる。

Reference: 岩下哲典・藤田英昭・徳江靖子・大場勇人・大場雅子 (2012). 幕末三舟の一人, 高橋泥舟研究覚書 (2) —明治27年秋, 飛騨高山への旅と日清戦争—. *Journal of hospitality and tourism*, 8 (1), 37-61.

Key Words: 高橋泥舟, 備忘録 (飛騨紀行), ホスピタリティ・ツーリズム学, 聖地

Abstract: 市井の旧幕臣として高橋泥舟という人物は自適に生きた。彼にとって明治27年飛騨高山への旅は, 当時すでに他界していた弟の鉄舟に思いをはせた旅であったといえる。この旅行中に書かれたものが「備忘録 (飛騨紀行)」である。これには飛騨高山への道中等で詠んだ漢詩30首, 和歌42首, 俳句9首などが収録されている。本論文は, エピソードを交え, 泥舟が生き生きと旅行する様子を描いた力作である。実際の漢詩, 和歌も巻末に掲載されており, 史料の価値も高い読み応えのある仕上がりとなっている。

Reference: 大塚 正・石川高史 (2001). 宮川水辺空間再生基本構想について. *リバーフロント研究所報告*, 12, 163-171.

Key Words: 水辺再生, 親水性, 歴史・文化, 観光, 市民活動, まちづくり

Abstract: 宮川は岐阜県高山市の中心部を流れる川である。宮川の治水計画では歴史のある宮川の水辺空間を再生することで, それをまちづくりに活かすことが基本理念とされた。宮川の治水計画を実現するためには, 市民, 民間企業, 学識者, 市, 県等の連携・協力が必要である。さいわい高山では, 歴史と伝統を生かした潤いのある町づくりが古くから市民活動によって支えられてきた。こうした慣習を継承し, 今後も行政主導による取り組みではなく, 市民の主体性・自主的な活動を重んじたまちづくりや都市計画が望まれる。

Reference: 尾花 蕃 (2007). 「デザインシティ飛騨高山」を目指すブランド強化の一環として地域団体商標を出願—. *地域政策研究 (地方自治研究機構)*, 40, 46-53.

Key Words : 伝統工芸, 木工製造業, 家具, 地域ブランド, 地域団体商標

Abstract : 高山市は観光産業に加え, 豊富な森林資源と古くから継承されてきた「飛騨の匠」と呼ばれる技術を用いた木工製造業などが基幹産業となっている。木工製造業の中でも, 飛騨の家具は大正時代からの歴史と伝統に支えられた産業であり, 協同組合である飛騨木工連合会は「飛騨デザイン憲章」を制定し, この憲章が飛騨の家具の精神的な支柱となっている。地域ブランド強化に向けて, 飛騨家具の「地域団体商標」への登録が予定されているが, それに向けて改善しなければならない余地はまだ多く残っている。

Reference : 片柳澄明・和田章仁 (2010). 観光活性化に向けた交通課題に関する研究—飛騨高山を事例として—. 日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌 *Hospitality*, 17, 75-83.

Key Words : 余暇活動, 観光交通, 高齢者

Abstract : 地域の活性化が大きな課題になっている地方都市において, 地域資源を活かした魅力的な地域づくりと交流人口の増大による観光活性化が注目を浴びている。こうした環境のもと, 今後増大が確実なシニア世代の余暇活動は非常に重要な意味を持つ。観光拠点に強い個性があり, これら趣の異なる複数の観光資源を周遊できることが高山観光の大きな魅力であるため, 街路整備や公共交通利用者の周遊利便性の向上が望まれる。高齢者が健康で有意義な余暇を過ごせる都市社会の模範を構築していかなければならない。

Reference : 加藤政洋 (2001). 近世地方都市における移入者の出身地分布—飛騨・高山町の場合—. 岐阜史学, 97, 85-96.

Key Words : 出身地分布, 近世地方都市, 人口移動

Abstract : 人口移動は結婚や養子縁組に加えてこれらの解消による血縁の移動, そして出稼ぎ・丁稚奉公などによる非血縁的移動に大きく分類することができる。近隣諸国の城下町や小都市, そして江戸, 京都などの遠方の大都市から高山への移動がある。移入理由の多くは縁組による血縁的移動であったが, 近郊農村からの移入だけでなく, 人口の移入先が広範囲に及んでいたことは興味深い。他方, 地理的に近接した美濃国郡上郡との間に人口移動の太いパイプが存在したことも事実である。

Reference : 神崎直美 (2000). 飛騨高山郡代豊田友直の人足寄場案—幕府天保改革推進の一事例—. 地域文化研究, 4, 49-68.

Key Words : 高山陣屋, 豊田友直, 人足寄場, 旧里帰農令, 天保の改革

Abstract : 江戸時代の人足寄場は無宿人の授産更生を目的として, 老中松平定信の寛政の改革において開設され, 老中水野忠邦の天保の改革の折には無宿・野非人旧里帰農令によって江戸以外の地にも設置が奨励されるようになった。その中で高山陣屋に人足寄場を設置しようとしたのが飛騨郡代であった豊田友直である。豊田の人足寄場案では, 都市部にいる無宿人の更生のみならず, 当該地区にいる無宿人の更生をも企図したことから治安維持の側面もあったと思われるが, 経済的な事情で人足寄場が設置されることはなかった。

Reference : 神崎直美 (2001). 飛騨高山郡代豊田友直の人足寄場案—解題と翻刻—. 地域文化研究, 5, 143-167.

Key Words : 豊田友直, 人足寄場, 勘定所, 伺書, 無宿・野非人旧里帰農令

Abstract : 豊田友直は人足寄場案を三度にわたり作成していた。これらは豊田が当地の寄場について構想した諸事項を勘定所に伺書として上申したものであり、「無宿・野非人旧里帰農令」の影響を受けた寄場資料としては、今日確認できる唯一のものである。一つ目の案は、主として寄場役人に関わるもの。二つ目の案は、若干の条文について公事方掛に相談するよう指示を受け、豊田が当該事項についてまとめたもの。三つ目の案は、寄場に建設する建物やその建築用材、費用、労働に携わる人数などを書き上げたものであった。

Reference : 共立総合研究所 (2008). 世界に誇る観光ブランド「飛騨高山」の実力. 地銀協月報, 580, 21-25.

Key Words : 産業構造, 観光都市, アクセス向上, リピーター率, ミシュラン観光地評価

Abstract : ミシュラン観光地評価で 3 つ星を獲得して高山は知れ渡った。観光が盛んなことは、1 人当たりの観光売り上げが岐阜県平均の 6 倍であることからわかる。高山観光はキャンペーンや宣伝により広まり、地元では市民と行政の力を合わせたまちづくりを続けている。交通アクセスの向上により通年観光都市となっている。また、外国人観光客の誘致に取り組み、その集客増加に成功している。リピーター率が高いことは、観光客を地元の人が温かくもてなす雰囲気やバリアフリーのまちづくりの成果として注目できる。

Reference : 源野武尚・片柳澄明・和田章仁 (2008). 飛騨高山における地域の活性化と観光振興に関する考察. 日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌 *Hospitality*, 15, 123-129.

Key Words : 観光活性化, 観光客, 交通課題

Abstract : 高山市の事業者アンケート調査から、観光部会と交通運輸部会の間で、観光客増加による地域の活性化は双方の事業者が期待しているが、観光客とのふれあいや交流といった面で、積極的な前者と消極的な後者で考え方の相違が見られた。また交通手段について、自動車よりも JR を利用してほしいと考える事業者と、自動車で訪れたいと考える観光客との間にも考え方の差があり、地元住民の活性化に対する意欲向上や、自動車利用から公共交通機関へのシフトなど多様な面での観光振興へのアプローチが必要である。

Reference : 古賀方子 (2006). 飛騨街道紀行—飛騨のまちづくりびとを訪ねて—. 地図中心, 410, 18-23.

Key Words : 飛騨街道, 観光, 町並み保存, 文化保存, 景観整備

Abstract : 飛騨街道 (現在の岐阜県内国道 41 号線付近に相当) に沿って発達した市町村を対象とし、自治体や民間団体の行うまちづくりの取り組みを歴史的な観点に着目して紹介している。下呂, 萩原, 高山, 国府, 古川の成り立ちを踏まえつつ、主に民間の団体や個人がそれぞれの街の景観や文化財を守るためにどのような活動を行っているのかが網羅的に挙げられている。歴史的建造物が多く残る飛騨地域の特色を生かして、地域の人々が団結して花やコンテストを使った景観整備や観光客の誘致に勤しんでいることがわかる。

Reference : 佐々木陽一郎 (2001). 飛騨高山の宗門人別帳—人口史料としての宗門人別帳の史料批判と若干の結果—. 千葉大学経済研究, 16 (3), 717-756.

Key Words : 宗門人別帳, 人口移動, 史料批判, 偽装雇用

Abstract : 高山の宗門人別帳は、弐之町の 1773 年から 1871 年の 99 年分と、壱之町の 1819 年から 1871 年までの 53 年分が 1 年の欠落もなく、高山市郷土館に保管されている。これらは年齢の誤記などがあるものの精度の高い史料である。読み解くと、高山市の人口移動頻度は高く、都市地域であることが分かった。そして特筆

すべきは、人口移入理由のほとんどが婚姻関係を結ぶことであり、偽装雇用としての婚姻関係の成立があった可能性が考えられるということである。

Reference : 佐々木陽一郎 (2003). 訂正 続飛騨高山の人口. 千葉大学経済研究, 17 (4), 725-734.

Key Words : 世帯数, 平均世帯数, 飢饉, 無高層, 高持層, 不完全家族

Abstract : この論文は江戸時代あたりの飛騨高山の人口について述べている。その飛騨高山の中でも式之古町, 式之新町, 壺之古町, 壺之新町とそれぞれに焦点を当て, 世帯数の増加率と石高別に平均世帯員数について論が展開されている。これらは各々 99年間および53年間のデータをグラフで図示しながら町ごとに調べられており, 不完全家族が増加する原因についてまとめられている。これを通して同じ飛騨高山の中での空間的な差異, また飢饉の後に急激に世帯増加率が上がる理由などがうまく説明されている。

Reference : 田中 明 (2015). 自治体先進施策紹介 飛騨高山ブランドの確立と海外戦略について. 地方財政, 54 (11), 221-237.

Key Words : 地域資源, 海外戦略, 飛騨高山ブランド, 消費税免税

Abstract : 高山市では, 国際観光の推進や多様な国との交流などを進めてきた。また, 受け継がれてきた文化や伝統の価値を, 海外からの来訪者と接することで見つめ直し, 高めるべきだと考えている。加えて, 外国人観光客の消費活動が市内の経済活性化に欠かせないものであり, 消費税免税制度は消費促進の追い風となっている。今後も地域資源を活用し, 国内外からの多くの消費を促進するためにも, 飛騨高山ブランドを確立し, 交流人口の一層の増大を図る必要がある。

Reference : 田中 彰 (2006). 東に乗鞍岳, 西に白山, 南に御嶽山を遠望する飛騨高山の歴史と文化. 地図中心, 410, 3-9.

Key Words : 地理的特色, 飛騨匠, 高山商人

Abstract : 飛騨の歴史や文化はその地理的特色のもと発展してきた。森林が豊富な飛騨では古くから木工技術に優れた飛騨匠らが活躍し, 寺社や城下町の形成に関わってきた。高山の町は時代に即応した都市計画のもと造られ, 防衛や経済の拠点としての役割を果たした。また主要街道の要衝の地でもあったため流通経済が活発になり, 近世後半には大名貸しをするほど高山商人の財力は大きくなっていった。しかし昭和9年, 鉄道の開通に伴い商業の中心が駅を核とした川西地区へ移り, 商人町は次第に仕舞屋へと変わっていった。

Reference : 田中 智・和田章仁 (2005). 観光客の回遊経路に関する考察—飛騨高山を事例として—. 福井工業大学研究紀要 (第一部), 35, 155-162.

Key Words : 歴史都市, 回遊経路, 散策対象空間, 魅力解明

Abstract : 観光客にとって町を歩くという行為そのものが, その町を訪れる主な理由の一つと考えられ, 観光客の回遊ルートを精緻に把握することは, 魅力ある都市空間の形成に関する重要な作業になると考えられる。本研究では, 高山市を対象とし, 歴史都市において観光客が散策の対象とする空間の魅力解明を試みている。調査方法としては, 3つの方法 (アンケート調査・追跡調査・写真調査) から観光客の歩行経路 (回遊経路) に着目し, それぞれの調査結果について比較検討を行っている。

Reference : 棚橋秀光・大岡 優・向坊恭介ほか (2014). 飛騨高山の伝統木造仕口の性能検証実験. 歴史都市防災論文集, 8, 1-8.

Key Words : 伝統的建築物保存, 伝統木造仕口, 古材, 耐震性能評価, 復元力特性, 材料試験

Abstract : 飛騨高山には, 重要伝統的建造物群保存地区に貴重な文化財を含む伝統的な木造建築物が多く残っており, その維持・保存のための適切な耐震性能評価と耐震補強が求められている。高山においては, 主要構造部材にヒメコマツとアカマツの2種類の木材が多く使用されるも, 材料力学特性の解明が不十分なうえ, 建築基準法上や実務上の扱いも不明確であった。本研究では, 古材の仕口と同じ樹種・形状の仕口を新材で作製し, 両者の比較実験を行い, それぞれの仕口の復元力特性を明らかにしている。

Reference : 谷沢 明 (2005). 歴史・風土・文化を活かした地域づくりに関する研究 (2)—事例研究・飛騨高山: 景観形成と地域社会の連帯を中心に—。愛知淑徳大学論集 (現代社会学部・現代社会研究科篇), 10, 31-50.

Key Words : 都市景観, 市民運動, 町並保存, 景観保存, 屋台組, 火消組

Abstract : 高山市の町並保存や景観保存をめぐる行政と地域社会組織の連携について考察した論考である。全国的にみても成功した事例の一つに数えられる高山市の歴史的・文化的景観を活かした地域づくりは, 高山祭の運営組織でもある屋台組, 長い伝統を持つ火消組などから派生した地域社会の組織 (たとえば町内会, 自主防災組織, 町並保存会, 景観保存会) が行政と緊密に連携して行われているものである。そこには地域社会が発展してくる中で醸成された信頼関係があり, それが高山市の景観形成に大きく寄与している。

Reference : 津田恵一 (2004). 国際観光都市を目指した飛騨高山の取り組み. 運輸と経済, 64 (5), 39-44.

Key Words : 国際観光都市, 伝統文化, 観光客, 外国人, 多言語化

Abstract : 飛騨高山は外的要因を受けにくい地域であるため, 伝統文化や生活習慣などが変わることなく受け継がれてきた。そのため日本人の心を飛騨高山に求めて, 観光客が訪れるようになった。今や高山市における観光産業は重要な基幹産業となっている。また外国人観光客誘致のため, パンフレットやホームページの多言語化に取り組んでいる。多くの外国人観光客を誘致するために, 各国の志向に合わせることは当然ながら, 先人が守り続けてきた文化などを後世に引き継いでいくことこそが一層の観光客誘致の基盤である。

Reference : 鳥居信彦 (2005). 歴史的遺産を活用した地域活性化の研究—飛騨高山のケース・スタディー—. 北陸学院短期大学紀要, 36, 293-305.

Key Words : 歴史的遺産, 町並み保存, 市民運動, 電柱撤去, 観光政策

Abstract : 高山市の地理的な位置特性から論を展開し, 交通アクセスの悪さゆえに経済発展の遅れが顕在化した高山市の概況に触れてから論が展開される。古い佇まいの町並みが急激に変化していた高度経済成長期に, 市民が歴史的遺産の重要性に気付き, 一部の町組で電柱撤去を成し遂げた経緯, その後の町並み保存運動や観光政策などが年譜的に, しかし羅列的にならないよう配慮しながら述べられる。地域の持つ「古き良きもの」を大切に継承していく観光政策により, 歴史的遺産を観光資源の軸に据えられることが理解できる。

Reference : 長沼 隆 (2008). 地方分権と広域合併が進む市町村の森林・林業行政を考える—日本一の森林都市「飛騨高山」から—。森林技術, 799, 2-8.

Key Words : 森林・林業行政, 市町村職員, 地域

Abstract : 日本一の森林都市である飛騨高山では市町村職員を中心として森林・林業再生に向けた様々な取り組みを行っている。主なものとして、市民参加型の施策形成と地域活動を目指した「高山市森づくり委員会」、民・国連携による「美しい森林づくり in 飛騨」、異業種との協働「建設業参入による林業改革プロジェクト」、民間主導による「木質バイオマスエネルギー利用」などが挙げられる。こうした取り組みには市町村職員が地域に密着した「よこ」の連携のもと、県や国などを巻き込むリーダーシップが不可欠である。

Reference : ベンチャー・リンク編集部 (2009). 町ぐるみで情報発信に努め外国人観光客を引き寄せる飛騨高山観光協会 (岐阜県高山市). ベンチャー・リンク, 23 (11), 66-69.

Key Words : 国際観光都市宣言, 外国人誘致, 中部国際空港, ビジット・ジャパン・キャンペーン

Abstract : 高山市は、86年にかかげられた、「国際観光都市宣言」により、国際観光モデル地区に指定され、官民一体となった外国人誘致、95年の白川郷の世界遺産の登録、05年の中部国際空港の開港と「愛・地球博」の開催によってヨーロッパからの観光客の増加に成功した。その背後には、政府と民間で進める「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を踏まえたパンフレット作成、「5か国語の会話集」や「海外訪客おもてなし365日」のマニュアルへの掲載など、サービス向上を図るための工夫が随所で認められる。

Reference : 宮腰 隆・中嶋芳雄・高松 衛ほか (2003). CG画像による古都景観の評価・分析—自動販売機による景観への影響について—. 照明学会誌, 87 (11), 919-924.

Key Words : 景観評価, 景観分析, CG画像, 自動販売機, SD法

Abstract : 近年、宣伝広告看板や自動販売機は周辺景観に調和することが求められている。本研究では、CG画像を用いてどのような自動販売機が伝統的景観に調和して馴染むかを調べた。加えて、自動販売機の宣伝広告の有無の違いによる景観との調和を調べた。研究結果より、自動販売機は周辺景観に多大な影響を及ぼすことが分かった。また、景観に調和するように自動販売機の色相を工夫すること、宣伝広告は極力控えめにすることが大切であることも判明した。

Reference : レジャー産業資料編集部 (2000). 飛騨高山—徹底したまちづくりが根強いブランドに結実—. レジャー産業資料, 33 (3), 69-75.

Key Words : ディスカバージャパン, 街並み観光, 高速交通, コンベンション設備, おもてなし

Abstract : 70年代に当時の国鉄が展開した「ディスカバージャパン」でその名を馳せた観光地の一つに飛騨高山がある。他の観光地と違い、ブームが去った後も、観光の枠を超え、地域を挙げて伝統的な街並みの保全や整備に努め、その手法は街並み観光を目指す全国の観光地から注目されている。特に住民が主導的に活動していることや交通網が整備されていること、また「まるごとテーマパーク」と銘打った、街並みや祭りなどの“古いもの”とコンベンション施設や観光施設などの“新しいもの”との融合なども図られている。

Reference : 和田章仁 (2005). 飛騨高山における観光振興とホスピタリティに関する考察. 日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌 *Hospitality*, 12, 13-19.

Key Words : 観光活性化, 観光客, ホスピタリティ, アンケート調査

Abstract : 飛騨の小京都と呼ばれている地方の歴史都市である高山市で、観光客の実質的な増加や滞在時間の延長を図るなどの観光活性化を促進するために、観光客の需要把握を目指して実施したアンケート調査に基づ

く研究である。研究結果から、観光活性化には歴史的町並みの保全や、それを取り巻く環境の保全はもちろんとして、イベントの開催や地場産業の振興などの地元の積極的な努力が必要であり、また一般市民の観光客に対するホスピタリティ意識の向上が、より一層大切になることが判明した。

Reference : 和田章仁・片柳澄明 (2009). 飛騨高山における観光活性化に向けた交通課題に関する研究. 日本ホスピタリティ・マネジメント学会誌 *Hospitality*, 16, 43-48.

Key Words : 歴史的町並み, 観光活性化, 旅行形態, 観光行動, 自動車交通, 公共交通

Abstract: 歴史的町並みを観光のセールスポイントにしている高山は、いかなる交通手段による来客で成り立っているのか、また観光客はいかなる観光行動をとるのかなど、高山をめぐる観光の特徴を把握して将来の観光活性化に向けての提案を試みた論文である。調査の結果、観光客の利用交通手段は自家用車が卓越しており、滞在期間は半日前後と短いことが判明した。今後は高齢の旅行者の比率が高まることが予想されるため、公共交通機関の一層の充実、宿泊や滞在に適した地域づくりなどの観光活性化が不可欠であろう。

3. 本稿著者が学界活動で知り得た、高山に関する直近の文献 (2014・2015年, 原則的に5ページ以上, ニュース, グラビア, 人文地理学との関係が薄い論文を除く, 氏名50音順)。個々の論文のキーワードから「高山」, 「高山市」, 「飛騨高山」は除外。

Reference : 麻生憲一 (2015). 高山市の観光動向と観光まちづくり. 石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 9-18.

Key Words : 観光入込み客, 観光消費額, インバウンド, 観光まちづくり, 重要伝統的建造物群保存地区

Abstract : 本研究は旧高山市 (高山市中心部) の観光客の動向について, 各種グラフを活用しながら概観したものである。順調に増え続けてきた観光入込み客の数が国内外を問わず東日本大震災の影響で一時的低下を余儀なくされたこと, 近年の一人当たり観光消費額は横ばいであること, インバウンド観光客の増大には台湾とタイからの観光入込み客の急増が大きく寄与していること, 重要伝統的建造物群保存地区を軸にした観光まちづくりは評価できるものの維持管理には多大な手間と費用を要することなどが指摘されている。

Reference : 石井里枝 (2015). 観光都市・高山の歴史の変遷—城下町から国際観光都市へ—. 石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 1-8.

Key Words : 城下町, 国際観光都市, 重要伝統的建造物群保存地区, 散策マップ, 情報発信

Abstract : 本稿は愛知大学経営総合科学研究所から2015年に刊行された『岐阜県高山のまちづくり』の序論にあたる論考で, 高山が城下町から国際観光都市へ成長していく過程と時代背景が整理されている。高山の観光資源は, 重要伝統的建造物群保存地区などの「古い佇まい」が主軸になっているが, それらを活用するための取り組みが列挙される。とりわけ近年における国内外を問わない誘客への工夫は他の観光都市でも活用可能なものであり, 多言語対応の散策マップの作成, インターネットでの情報発信は注目できる。

Reference : 神頭広好 (2015a). 岐阜県および高山市の旅行者特性. 石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 19-54.

Key Words : 旅行者動向, 主成分分析, コンビニエンスストア, 道の駅, 旅行意識調査

Abstract : 高山市の旅行者特性を主成分分析で検討した結果、10個の居住地変数で全体の約4分の3を説明できることが判明した。このほか、旅行タイプ、同行者タイプ、宿泊日数、交通手段タイプについても主成分分析の結果が列挙される。続けて岐阜県内観光での高山の位置づけ、市街地に展開するコンビニエンスストアの役割、高山へのアクセスと関連させて道の駅に関する記述もある。また、相対的経験（行った経験の有無）と相対的認知（行ってみたいか否か）で分析すると高山は金沢に近い特性を持つことが判明した。

Reference : 神頭広好 (2015b). 北陸新幹線および中央リニア新幹線開通による高山市の経済効果. 石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 71-84.

Key Words : 北陸新幹線, 中央リニア新幹線, ミクロ経済学, 距離弾力性, 経済効果

Abstract : 北陸新幹線開通, また将来の中央リニア新幹線開通を視野に入れた経済効果について, ミクロ経済学における価格弾力性を応用した距離（時間や料金）弾力性によって, 経済効果を導出した論考である。起点は消費者（旅行者）が多い首都圏を想定している。結果, 時間短縮がより多くの経済効果をもたらすことが分かったが, 時間短縮によって宿泊客が減少するリスクも指摘された。また, 経済効果を一層増大させるためには時間短縮の他に車両や施設でのサービス向上やバリアフリー徹底が必要なことも提言されている。

Reference : 駒木伸比古 (2015). GISを用いた「飛騨高山ぶらり散策マップ」の検討—批判地図学のアプローチに基づいて—。石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 55-69.

Key Words : GIS, 散策マップ, 批判地図学のアプローチ, コンビニエンスストア, 路地

Abstract : 本研究は, GIS (地理情報システム)を駆使して, 高山市観光課が発行している「飛騨高山ぶらり散策マップ」を分析し, 製作者側の意図を解釈するという批判地図学のアプローチによって, 観光資源の分布特性や道路密度などを図化したものである。観光とは緑の薄い沿道型ショッピングセンターの未記載は仕方が無いにせよ, 歩くための地図ならば, 利用が多いと考えられるコンビニエンスストアや路地の未記載には改善の余地がある。ただ路地については, 生活道路であることへの配慮を求めることも忘れてはいない。

Reference : 澁谷鎮明. (2014). ふたつの高山—海外からの団体ツアー客・個人客の視点と観光行動—. 貿易風 : 中部大学国際関係学部論集, 9, 234-247.

Key Words : 外国人観光客, 団体ツアー客, 個人客, ロンリープラネット, リトルキョウト

Abstract : 外国人観光客が多く訪問する高山を例にして, 次の二つの属性それぞれの観光行動を分析考察している。一つは台湾人を中心とする団体ツアー客, もう一つは欧米人を主体とする個人客である。前者では金沢, 白川郷や立山黒部アルペンルートを巡るツアーの結節点として短時間の滞在が多く, 市内の訪問地も中心部に限られる。他方, 後者では『ロンリープラネット』やWebで情報を得た滞在型での訪問が目立つ。高山にリトルキョウトを見出し, 「安全」「落ち着き」などの高い評価が目立つのも個人客の特徴である。

Reference : 助重雄久・飛騨高山観光調査グループ (2011). 東海北陸自動車道全通後における飛騨高山観光の動向と課題. 富山国際大学現代社会学部紀要, 3, 139-151.

Key Words : 東海北陸自動車道, 白川郷, パッケージツアー, 外国人観光客, リピーター

Abstract : 本研究では, 国内外の観光客に対するアンケート調査を通じて, 東海北陸自動車道の全通が白川郷との観光ルート確立やパッケージツアーの増大を促したことが解明された。また, 日本人観光客が数日程度の

短期滞在であるのに対し、外国人観光客の滞在期間は長く、日本国内の他の観光地も広範にめぐっていることが分かった。リピーターを一層増やす努力とともに、国内客に対応した短期滞在型プラン、中高年や外国人を対象とした長期滞在型プランの並立が、高山観光を一層促進していくための鍵になると考えられる。

Reference : 張 慧娟 (2015). 高山市における中国語観光フリーペーパーについて. 石井里枝ほか編著『岐阜県高山のまちづくり』, 愛知大学経営総合科学研究所, 85-93.

Key Words : 中国人観光客, 観光フリーペーパー, 観光スポット, 観光情報, 説明文

Abstract : 中国人観光客が多く訪問するようになった高山にとって、彼らに対して分かり易い情報を無料で伝え得る観光フリーペーパーの果たす役割は極めて大きい。この観光フリーペーパーには雑多な観光スポット、開館時間や料金などの観光情報が盛り込まれるが、説明文（説示文）を詳細に検討すると表現が分かりにくいものも珍しくなく、そこから多くの改善点が浮かび上がってくる。改善策を例示すると、長文を避ける（=最後まで読んでもらう）、誘客したいスポットについて端的でストレートな説明を施すことなどがある。

Reference : 山元貴継・内山桂次・枝廣優也 (2016). 岐阜県高山市におけるアニメ・ツーリズム一質問紙を用いた「アニメ聖地巡礼」行動把握の試み一. 都市地理学, 11, 44-58.

Key Words : コンテンツツーリズム, アニメ「氷菓」, アニメ聖地巡礼, 観光行動, 質問紙

Abstract : コンテンツツーリズム（映画やドラマなどのコンテンツの舞台を訪問する観光行動）の中でもアニメ聖地巡礼が注目されている。この観光行動の実態を探るため、アニメ「氷菓」の舞台となった高山市中心市街地を対象地域として質問紙を使った調査を実施した。調査地点の分布による若干のバイアスを含みながらも、アニメ「氷菓」視聴経験のある観光客の行動範囲は、非視聴者のそれと比べると総じて市街地北部の聖地周辺に及び、しかも当該地点だけでなく地点間の観光スポットにも立ち寄る傾向が明らかとなった。